

平成25年度 事務事業マネジメントシート

事業名	理科実験廃液等処理事業			会計	款	項	目	大	事	小	事
				01	10	01	04	04	01		
政策	03	3節 学び、受け継がれ、進展する流山（教育・文化の充実向上）			主管課		指導課				
施策	3-2	個性を生かす教育環境の基盤充実			主管課長		矢内 智子				

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	市内小中学校	意図	小中学校の授業で出された理科廃液や薬品を適切に処理する。
事業内容	産業廃棄物処理法に基づき、業者に委託し、授業で出された理科実験廃液や薬品を処理することにより、地球環境を考えた処理ができる。 身近なこと（ゴミの処理）から地球規模の環境問題に対する意識の高揚がはかれる。			
事業開始から現在までの状況変化	環境基本法の制定に向けた世論の議論が高まっていた。理科の実験についても、児童生徒が意識をもって廃液処理を行うことができるようになり、業者委託により、適正に処理されている。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
	①	環境への意識が高まったかどうか。	86.90	85.80	86.90	%	→→
②							
③							
④							
指標で表すことができない定性的な成果							目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況） ・環境保全に対する市民の関心が高まっている。 ・学校で、児童生徒の意識を高めないと少量の廃液や薬品は適正に処理されず、そのまま流しに捨てられることがあるので、一人ひとりの児童、生徒の適切な廃液処理への意識をさらに高め、徹底している。 ・理科の実験後の児童生徒の薬品処理に関して、教師の指導が的確に反映されてきている。
事務事業のコスト		平成23年度	平成24年度	平成25年度			
事務事業の総コスト(a=b+c)		294,947	194,199	227,234			
事業費(b)(円)		294,947	194,199	227,234			
うち一般財源		294,947	194,199	227,234			
職員給与費(c)(円)							
人役・職員(人)							
人役・再任用(人)							
人役・臨職(人)							
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	B 必要性は変わらない	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①今年度(H25)の改善計画	理科実験廃液や薬品を適正に確実に処理する。	③取り組みの課題	現状がベストな状態である。特になし。
②今年度(H25)に実施した取り組み	産業廃棄物処理法に基づき、業者に委託し、授業で出された理科実験廃液や薬品を処理した。	④今後の改善計画	理科実験廃液や薬品を適正に処理することにより、児童生徒の環境保全意識をさらに高める。